



評価のポイント

CL-1.専門性の開発能力

【60-1】論理的レポートの書き方

1. インターネットから情報を得る際にどのようなことに注意しますか。

剽窃（盗用）にならないようにする。著作権法の第32条（引用）と第48条（出所の明示）例として以下のような事例がある。

- ・書籍・雑誌・新聞等や Web サイト等に掲載された他人の文章や資料等について、出典を示さずにそのまま使う。
- ・前後関係や語句を若干変更した程度でレポート・論文を作成する。
- ・引用した部分を具体的に示さずに文章を使用する。
- ・他人が作成した文章をあたかも自分が作成したかのごとくみせかけて、表現や内容を少し変更して作成する。

2. 伝わりやすい文章表現をするためにどのようなことに注意しますか。

文の長さは長くなりすぎないように一文を40-50文字程度にする。一文で伝えることをシンプルにし、接続詞を正しく使用する（一文に主語1つを基本にする）。

あいまいな表現を避けて具体的に伝える。段落の作りを考えて記載する。1つの段落に書くことは1つにする。段落ごとに改行する。段落の始まりは一文字あける。読点は、読みやすく、誤読しない位置に使用する。伝わりやすい文章となるように、レポートの文体、文の構成を意識して記載する。

3. 著書の一文を引用する際にどのようなことに注意しますか？

自分の文章と主従関係が存在すること。引用は補足として、引用割合が自分の文章より多くなならない。自分の文章と引用部分を明確に区別する。「 」や『 』をつけて引用した文章を明確に表現する『この事件には△△が関連している1)』文献番号を記載する。引用文章が改変されていないこと。文章に手を加えずにそのまま引用する。出典元の情報が記載されていること。